

# 漁場環境・水産資源持続的利用型技術開発事業

【平成20年度概算決定額 177（283）百万円】

## 対策のポイント

漁場環境の改善や資源の持続的利用を図るための研究・開発を効率的に実施します。

（背景）

- ・ 国際競争の激化、周辺水域の漁場環境や資源状況の悪化等厳しい状況。
- ・ ゲノム研究の成果により、DNAを用いた明確・簡便な種や原産地の判定手法が発展。
- ・ これら技術を活用して、外国産品との差別化や良好な漁場環境を確保し、資源の持続的な利用を図るための研究・開発を実施。

## 政策目標

低位水準にとどまっている水産資源の回復・管理の推進

### <内容>

#### 1. 水産物の原産地判別手法等の技術開発

水産物の名称・原産地の適正な表示を確保するため、遺伝情報、たんぱく質情報、微量元素等の分析により、品種・原産地判別手法等の技術開発を行います。また、優良な形質を有するノリ株を確実・簡便に選抜するため、室内培養による品種特性の評価技術開発を行います。

#### 2. DNAチップによる養殖漁場健全度評価手法の開発

養殖漁場の環境負荷軽減及び環境改善に対する取組の効果を簡便かつ迅速に把握するため、漁場底質等に生息する微生物相に着目し、微生物相全体から得たDNA（環境DNA）を用いて漁場環境を評価する手法（DNAチップによる評価手法）を開発します。

（委託先：民間団体等）

[担当課：水産庁研究指導課（03-3591-7410（直））]